

關東上陸地支局

昭和三十一年三月二十八日

史實調查參考資料報告

摘要

全右所在地	沖繩縣宮古島	所屬部隊(固有名)	騎兵第十三聯隊	關東上陸地支局
於ケル自己ノ略	昭和十六年七月西昌騎兵第一聯隊要員トテ近衛騎兵聯隊應召	年月日及編制裝備ノ概要	昭和十六年八月廿八日入ルビン騎兵第一聯隊要員日本部附	昭和三十一年三月二十八日
歷	昭和十六年九月廿五日任陸軍中尉	所在部隊ノ編成	昭和十六年九月廿五日任陸軍大尉	終戰時ノモノヲ
過ノ概要	昭和十五年八月二十日公事領ニテ編成本部、一中隊 平隊機械銃連隊、三中隊ニシテ兵力約四三百名	所屬部隊作戦經過	昭和十五年九月二十日勤員下令 昭和十九年六月三十日勤員下令	記ス
備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス	先	昭和十九年七月一日フリオ出發 昭和十九年八月三日宮古島上陸爾后同島附近 逐時復員中	ノモ併記ス
其ノ他ノ参考事項	歸鄉(又ハ連絡)	終戰(又ハ主力ノ戰闘終了) 後ノ概況	昭和十六年八月十日終戰、命テ後之不事の現地見光 ヨリ後給養衛生、海上輸送、傷病還て準備中 兵員主力ハ昭和十六年十月十九日宮古島出發沖縄に向	歸還輸送ノ狀況 ノモ併記ス

關東上陸地支局

昭和二十一年三月二十九日

史實調査参考資料報告

所屬部隊 (固有名)	騎兵第三十八聯隊	職官	騎兵第三十八聯隊附小隊長	終戰時のモノヲ	摘要
全右所在地	沖縄縣宮古島	氏名	陸軍中尉	記入	要
所在部隊ノ編成	陸軍騎兵曹長、騎兵第十六聯隊本部附、昭和十四年八月一日仕	陸軍准尉	陸軍准尉同日補騎兵第十六聯隊附、昭和十五年八月三十日騎兵	ル参加戦闘名ヲ	
年月日及編制裝備ノ概要	第三十八師團所屬騎兵聯隊ニテ聯隊本部、乗馬二般中隊二同機関銃中隊一、三中隊三下兵房約三百五十名、昭和十五年八月初年六月入隊トキ完全編成、上兵房約四百五名	機関銃中隊一、三中隊三下兵房約三百五十名、昭和十五年八月初年六月入隊トキ完全編成、上兵房約四百五名	第三十八師團本部附、昭和十五年八月三十日騎兵	記入	
所屬部隊作戦經過ノ概要	昭和十五年九月滿洲國吉林省公主廟、於テ編成	第三十八師團所屬騎兵聯隊ニテ聯隊本部、乗馬二般中隊二同機関銃中隊一、三中隊三下兵房約三百五十名、昭和十五年八月初年六月入隊トキ完全編成、上兵房約四百五名	第三十八師團本部附、昭和十五年八月三十日騎兵	ル参加戦闘名ヲ	
最後ノ所屬部隊	ヲ主ニシ尙ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス	以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス	以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス	以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス	
備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス				
其ノ他ノ参考事項					
歸郷(又ハ連絡)	先				
備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス				

關東上陸地支局

昭和二十一年三月二十八日

史實調査参考資料報告

所屬部隊
(固有名)

騎兵第二十八聯隊

職官

陸軍醫少尉

終戰時ノモノヲ
記ス

全右所在地

沖繩縣宮古島

氏名

本前附

記ス

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略

昭和八年七月一日南海派遣明九月一部隊要員よし子西鄉巽

昭和九年五月一日陸軍駆逐學校二入校(甲種幹部候補生)

記ス

歷

昭和九年八月一日同被卒紫騎兵第一八聯隊へ轉属(見主)

ル參加戰闘名ヲ

記ス

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝備ノ概要

昭和九年八月一日公生編三編成本部一重隊二中隊機械銃中隊一

記ス

所屬部隊作戰經過ノ概要

昭和九年六月八日拂曉駐同附近警備

以前ノ所屬部隊
ヲ主ニシ尙ソノ
ノ分ヲモ概記ス終戰(又ハ主力
ノ戰闘終了)

昭和九年六月十一日拂曉

ノモ併記ス

後ノ概況

昭和九年八月三日宮古島上陸

記ス

昭和九年八月終戰命令ヲ受クヤ零自活ニテノ將兵ノ給養並ニ衛生
ノ向三易ノ歸還(準備レヤ) 天皇ハ主力ハ昭和二十年十月十日由是
鳥海沖繩回送逐時復員中

記ス

復員

記ス

歸郷(又ハ連絡)

記ス

其ノ他ノ参考事項

記ス

備考

蔣校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

關東上陸地支局 昭和三十一年三月二十八日

史實調査参考資料報告

所屬部隊 (固有名)	騎兵第十八聯隊	職官	聯隊本部附獸醫中尉	終戰時モノヲ
全右所在地	津繩縣宮古島	氏名	[REDACTED]	記ス
所在部隊ノ編成	昭和十六年七月廿臨時召集、戰歸是智官 昭和十七年八月五日仕數兵村 昭和十九年四月一日任數速中尉	年月日及編制裝備ノ概要	昭和十五年八月二十日公主嶺於ノ編成 師團騎兵ニシテ編成、本部、一班中隊ニ MG中隊一(7.5cm MG4)	職ノ變更及主ナ ル參加戰闘名ヲ
過ノ概要	所屬部隊作戰經過 昭和十五年九月八日、松城 九年五月、高知爾基移駐 六月九日、勦賊下令 七月上旬、高知爾基去冬 八月三日、呂不島上陸後後方、守備ニシテ 残員ハ逐次復員中	過	昭和十五年八月二十日、宮古島上陸	記ス
備考	其ノ他ノ参考事項 歸鄉(又ハ連絡) 先	終戰(又ハ主力ノ戰闘終了) 後ノ概況	終戰後寧ラ自沾ニ依リ將兵、給養至衛工、向ニ努メ歸還 江原ノ主力ハ昭和二十年一月十九日宮古島発沖縄ニ回送	最後ノ所屬部隊 ヲ主ニシテ尙ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス 歸還輸送ノ狀況 ヲモ併記ス

關東上陸地支局 昭和二年三月二十八日

史實調査参考資料報告

所屬部隊 (固有名)	騎兵第二十八聯隊	職官	小隊長・中尉	終戰時ノモノヲ 記ス
全右所在地	宮古島	氏名	[REDACTED]	

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略

歷

昭和十五年一月十日近衛騎兵聯隊補充隊八隊
合
年
昭和十八年十二月一日陸軍少尉 中隊付
昭和二十一年八月三十日陸軍中尉 小隊長

所在部隊ノ編成

昭和十五年八月三十一日 公使旗ニテ擴成
本部 一中隊 二中隊 機械銃中隊 三中隊
ニシテ兵力約四三〇名

年月日及編制裝備ノ概要

昭和十五年九月八日ビン移駐八八ビン附近警備

合
十九年二月二日ラルヤ移駐

合
十九年八月三十日ラルヤ移駐

合
十九年八月三十日ラルヤ移駐

爾後不動手備ニシアリ

終戦(又ハ主力
ノ戰闘終了)
後ノ概況

終戦後車自走特科、給養等ニ衛生

向土努メ帰還ヲ準備中

冬夜、主力八月二十日十九日宮古島に直接復員

逐次復員ナリ

備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス	歸還輸送ノ狀況 ヲモ併記ス
其ノ他ノ参考事項	歸鄉(又ハ連絡) 先	

關東上陸地支局

昭和二十一年三月八日

昭和二十一年三月八日

史實調查參考資料報告

摘要

所屬
(固有名)

騎兵第八聯隊

氏名

小隊長少尉

終戰時ノモノヲ
記ス

全右所在地

沖繩県宮古島

官

軍人

職ノ變更及主力
ル參加戰鬪名ヲ
記ス支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略

歴

昭和十七年十一月十二日
十二月三十日
滿洲十九二部隊編入(騎兵三大)昭和十八年一月二十日
八月十四日
騎兵步兵校入校

昭和十九年八月十一日公主號ニテ編成

騎兵步兵

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝備ノ概要

本部、一中隊、二中隊機甲銃中隊、三中隊

軍力約四三十名

所屬部隊作戰經
過ノ概要

昭和十九年九月ハルビン移駁 同附近警備

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ尙ソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス終戰(又ハ主力
ノ戰闘終了)
後ノ概況騎兵後專ラ自沿ニヨリ將兵、給養並衛兵、
向土ニ努メ帰還ヲ準備中歸還輸送ノ狀況
ヲモ併記ス歸鄉(又ハ連絡)
先馬員、吉川ハ昭和十九年十二月十九日宮古島出發、
沖繩ニ廻送、馬員ハ宮古島直接復員

遂次復員ナリ

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

其ノ他ノ参考事項

關東上陸地支局

昭和二年三月三日

史實調查參考資料報告

		所屬部隊 (固有名)	騎兵第弐入騎隊	職官 騎兵中尉	摘要
全右所在地		宮古島	氏名 [REDACTED]	終戰時ノモノヲ 記ス	
備考	歸鄉(又ハ連絡)	先	終戰(又ハ主力) ノ戰闘終了) 後ノ概況	所屬部隊作戰經 過ノ概要	最後ノ所屬部隊 ノ主ニシ尙ソノ 以前ノ所屬部隊 ノ分ノモ概記ス
其ノ他ノ参考事項	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	歸還輸送ノ狀況 ヲモ併記ス	

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略歴
〔略〕
支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略歴
〔略〕

昭和十五年九月八日、北支派遣軍三十七師團被當隊入隊。
自西三一五、五、六、七日、由天津及寧津縣之旅順、鰲島、海城、丹東、大連等處乘船赴支那。
自西三一五、六、七日、由天津及寧津縣之旅順、鰲島、海城、丹東、大連等處乘船赴支那。
自西三一五、六、七日、由天津及寧津縣之旅順、鰲島、海城、丹東、大連等處乘船赴支那。
自西三一五、六、七日、由天津及寧津縣之旅順、鰲島、海城、丹東、大連等處乘船赴支那。

昭和十五年十一月二十日、公主嶺に上陸。
師團騎兵下士編成八本部一一般中隊二個中隊一
三千九百四十五名

昭和十五年十一月三十日、新夏下店
八月三十一日、富拉爾基移駐
八月三十日、宮古島上岸、南飛光鳥、
沖繩回送、殘員返波復員中

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

關東上陸地支局 昭和 年 月 日

史實調查參考資料報告

所屬部隊 (固有名)	關東上陸地支局		昭和 年 月 日
全右所在地	沖繩縣宮古島		氏名
支那事變以降ニ 於ケル自己ノ略	昭和十五年一月廿日近衛機械軍一聯隊入常 二月廿一日新兵學校幹候役入隊 平素 十九年九月廿日中尉進級	陸軍中尉	終戰時ノモノヲ
所在部隊ノ編成 年月日及編制裝備ノ概要	昭和十五年八月三十日公主嶺飛行場 機團編成 十九年三月フラルキ移駁 六月二十九日前員下令 七月一日フラルキ去 昭和十七年八月三十日宮古島上陸後市馬ノ守備		記ス
所屬部隊作戰經過ノ概要	昭和十五年八月ハルビュ移駁ハルビン附近警備 リ十九年三月フラルキ移駁 六月二十九日前員下令 七月一日フラルキ去 昭和十七年八月三十日宮古島上陸後市馬ノ守備	以前ノ所屬部隊 ヲ主ニシ尙ソノ ノ分ヲモ概記ス	最後ノ所屬部隊 ヲ主ニシ尙ソノ ノ分ヲモ概記ス
備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス	歸還輸送ノ狀況 ヲモ併記ス	
其ノ他ノ参考事項	歸鄉(又ハ連絡) 先		

關東上陸地支局

昭和三十一年三月二十八日

史實調査参考資料報告

所屬部隊
(固有名)

騎兵第ニ七八師隊

職官
陸軍主計中尉

終戰時モモノヲ
記ス

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略歴

昭和十五年二月十九日支那于士麻以公字隊入焉
翌年五月二十日東北省軍事委員會于士麻以公字隊歸屬
八月一日支那人民軍之役用二種係同年七月一日起于士麻
三月廿九日同月廿九日于士麻以公字隊付

同年十二月廿九日于士麻以公字隊付

翌年六月二十八師隊付

職ノ變更及主ナ
ル參加戰闘名ヲ
記ス

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝備ノ概要

昭和十五年八月二十日公字隊於士麻以公字隊付
同年九月二十日公字隊於士麻以公字隊付

最最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシテソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

所屬部隊作戰經過ノ概要

昭和十五年九月八日于士麻以公字隊付於士麻
同年九月二十日公字隊於士麻以公字隊付

最最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシテソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

終戰(又ハ主力
ノ戰闘終了)
後ノ概況

昭和十五年十一月二十日于士麻以公字隊付
同年十二月二十日于士麻以公字隊付

最最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシテソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

歸鄉(又ハ連絡)
先

昭和十五年十一月二十日于士麻以公字隊付
同年十二月二十日于士麻以公字隊付

最最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシテソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

最最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシテソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

最最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシテソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

東上陸地支局

文實調查參考資料報告

昭和年月日

所屬部隊
支那事變以降於九自已略丁

小隊長

終戰記入要

騎兵第二十八聯隊

名

終戰記入要

沖縄縣宮古島

軍

終戰記入要

昭和十九年十一月十五日

同校卒業

終戰記入要

昭和十九年一月二十日

降軍騎兵學校入校

終戰記入要

昭和十五年八月二十日

任降軍少尉

終戰記入要

備及編制裝備
備要

昭和二十一年八月二十日

沖縄縣宮古島騎兵第二十八聯隊着任

終戰記入要

小號二中隊

軍

終戰記入要

所屬部隊
支那事變以降於九自已略丁

軍

終戰記入要

昭和二十一年八月二十日

軍

終戰記入要

終戰次主
力戰斗終
了狀況

宮古島三於子現地自活

昭和三十年十二月二十日 宮古島出發

終戰記入要

昭和三十年十二月二十四日 沖縄東島着

軍

終戰記入要

昭和三十一年三月一日 沖縄東島出發

軍

終戰記入要

昭和三十一年三月六日 浦賀着

軍

終戰記入要

歸船(又連
絡)先

軍

終戰記入要

其
他參
考事項

軍

終戰記入要

備
考

將校三記載之復員省文部二段付又

軍

終戰記入要

關東上陸地支局

昭和年月日

史実調査参考資料報告書

摘要

所屬部隊
支那軍麥以
降於ナル自
己ノ略丁

職名

陸軍少尉

終戰時元老
記入全右所在地
冲縄縣官古島

八名

陸軍少尉

記入

昭和十九年十二月十五日 騎兵十人聯隊入隊
昭和十九年一月二十日 陸軍步兵連隊入隊
昭和二十年正月一日 同校 陸軍步兵連隊入隊
昭和二十年正月十五日 同校 陸軍步兵連隊入隊
昭和二十年正月廿二日 同校 陸軍步兵連隊入隊
昭和二十年正月廿五日 同校 陸軍步兵連隊入隊

冲縄縣官古島

陸軍少尉

陸軍少尉

記入

所屬部隊
編成年月日
備註
概要

昭和十五年八月三十日

陸軍少尉

陸軍少尉

記入

所屬部隊
編成年月日
備註
概要

昭和十五年八月三十日

陸軍少尉

陸軍少尉

記入

終戰(支那)
力ノ戰斗終了ノ
状況
昭和二十年正月二十日 官古島支那軍
昭和二十年正月二十四日 冲縄平島支那軍
昭和二十年正月二十一日 冲縄平島支那軍官古島於現地自衛
小統ニシ中隊歸還輸送
行方不_ト最終所屬
部隊ヲ主
三尚ソノ
以テ所屬
部隊ノ介
支那軍記入帰還(又は)
終(先)其他(參)
乃平頂

考 時枝記載又ハ筆復員省支那軍付又

支那軍